号外

速中タイムズ

2024（令和６年）
11/30　土曜日

第１８回北信越中学校駅伝競走大会

女子2位・男子6位と大活躍

男女のW入賞は本校初快挙！

第18回北信越中学校駅伝競走大会が30日、長野市営陸上競技場周回コースで開催され、女子の部（参加数30校・団体）で２位、男子の部（参加数31校・団体）で６位になるなど、本校駅伝部が大活躍した。同大会には、昨年度も男女で出場していたが、男子は３秒、女子は２秒及ばず、ともに９位で入賞を逃していた。今回は、女子が第15回大会以来５度目の入賞を果たし、続く男子が第２回大会以来２度目の入賞を果たしたことから、念願の本校初『男女W入賞』を掴み取った。

女子の部では、各校のエースが集う１区で此川（232H）が３kmを粘り強く走り、５位という好位置で２区の奥井（323H）にタスキリレー。奥井は、前を走る長田（石川）、弥彦JHSRC（新潟）、赤穂（長野）を区間１位（区間賞）の走りで抜き去り、全体順位を２位に押し上げた。３区の柴田（39H）はしっかりと後続との差を広げる走りを披露。１～３区の３年生がプラン通りの走りを見せ、４区の北川（12H）とアンカーの神原（14H）の１年生コンビにタスキをつないだ。３年生の『ラストラン』のタスキを受け取った北川と神原は、大舞台の重圧に臆することなく好走。39分50秒の２位でゴールした。

男子の部では、１区にエースの土師（35H）を起用。他チームもエースの投入が予想され、苦しい展開も考えられたが、土師はチームベストの走りを見せ、奥野（33H）にリレー。２区は他チームの順位が大きく変動する中、奥野が落ち着いて自己ベストに近い走りを披露。３区の新村（33H）、４区の山﨑（32H）、５区の青木（39H）の３選手が区間４位の好走。３人で前を走る10チームを抜き去り、全体順位を入賞圏内の７位にまで押し上げた。アンカーは舟木（35H）。35秒前を走る真田クラブ（長野）を捉え、56分12秒の６位でゴールした。

また、チャレンジレースの男子の部に、浅井（32H）、杉浦（233H）、内藤（33H）、女子の部に、小林（33H）、中川千那（23H）、中川千理（23H）の６名が出場した。男子は、今後、12月15日に滋賀県で開催される第32回全国中学校駅伝大会に出場する。

駅伝部男子監督の宮脇教諭は「北信越大会は、各県の優秀チームが集う大会だけに、男女で出場するだけでも難しい。その中で男女とも力を出し切り、速中初の『W入賞』をすることができ、嬉しく思っている。選手やスタッフには、今日まで本当によく頑張ってくれた」と選手たちをねぎらった。また、同部女子監督の野村教諭は「選手たちは本当によく頑張った。全中大会に出場する男子には、『チーム速星』として今まで一緒に頑張ってきた女子チームの思いも込めた力走を期待しています」と今大会を振り返り、男子チームを激励した。